

平成22年度いわき地方農業技術情報（第5号）



平成22年8月12日

福島県いわき農林事務所

台風4号に対する農作物等の技術対策



台風4号は、12日4時には鳥取市の北約180キロの海上にあって、1時間におよそ35キロの速さで、東北東に進んでいます。中心の気圧は992ヘクトパスカル、中心付近の最大風速は23メートルです。

今後、台風は日本海を東北東に進み、12日夜には東北地方に上陸するおそれがあります。

浜通りでは、12日昼過ぎから12日夜遅くにかけて激しい雨の降る所があり、12日06時から13日06時までに予想される24時間雨量は、多いところで80ミリです。また、12日昼過ぎから13日未明にかけて、南よりの風が強く、予想される

最大風速は、陸上で15メートルです。

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。

【作物】

1 水稲

台風4号の通過時期は多くの地域で水稲の穂揃い期～傾穂期にあたり、台風通過時の強風による傷刈の多発や、フェーン現象による乾いた風により稲穂の水分が奪われ白穂となる被害の発生が懸念されます。

(1) 事前対策

ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミを取り除いておきましょう。

イ 台風襲来により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないで下さい。

ウ フェーン現象に伴う水分の収奪に備え、深水管理を行います。

(2) 事後対策

ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く穂先や葉先を出すよう努めてください。

イ 浸水・冠水した稲は耐干性が低下しているため、排水後も田面を乾かさず、間断かんがいにより根の健全化を図りましょう。

ウ 台風通過後は、いもち病の発生が懸念されるので、葉いもちが発生している水田では薬剤散布など防除の徹底を図りましょう。なお、水面施用剤を使用した水田でも、冠水等によりいもち病の多発が懸念される場合は、粉剤等による追加散布を行ってください。

エ 浸水・冠水した場合、アワヨトウやウンカ類が発生しやすいので、早期発見に努め発生が確認される場合は薬剤による防除を行きましょう。

2 大豆

(1) 事前対策

ア 速やかにほ場排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。

イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

(2) 事後対策

ア 表面水や明きょの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

イ 紫斑病は、降雨等による多湿条件で発病が多くなるので、開花期後20日頃に薬剤散布を実施しましょう。

3 そば

そばは湿害に弱いので、大豆に準じた排水対策を万全にしましょう。

【野菜・花き】

1 事前対策

(1) 共通

ア ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害の常習地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

イ ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

ウ パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

エ パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。

オ 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

カ 雨よけのみのパイプハウス等施設は強風に弱いいため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

キ 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

ク は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

(2) 野菜

ア 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。

イ 露地きゅうりやインゲンは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。

ウ アスパラガスやピーマンでは、フラワーネットと支柱、また、ナスでは支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。

(3) 花き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

2 事後対策

(1) 共通

- ア 停滞水は、明渠などで速やかな排水に努めましょう。
- イ ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、適切な薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。
- ウ 茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- エ 台風通過後は天気が回復するため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

(2) 野菜

- ア 果菜類やマメ類で、損傷を受けた果実は早急に摘果（莢）しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- イ 冠水した場合は、ほ場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は出入りを極力避けましょう。
- ウ 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復しましょう。
- エ 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。露地きゅうりでは疫病・炭そ病・褐斑病、雨除けトマトでは灰色かび病、葉かび病等が拡大しやすくなります。その後、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。
- オ 露地ナス、インゲンでは灰色かび病等が拡大しやすいので直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。その後、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。
- カ スレ果など収穫物の選果・選別には、注意しましょう。
- キ 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょう。

(3) 花き

- ア キクやリンドウ、シンテッポウユリなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のため液肥の葉面散布を行いましょう。
- イ ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

【果樹】

1 事前対策

- (1) 果樹棚は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。
- (2) らせんアンカーやタイヤなどを利用した棚の引き下げ、支柱による棚の引き上げにより、強風で棚が上下に動かないようにしましょう。

2 事後対策

- (1) 滞水している園地では、明きよなどにより速やかな排水に努めましょう。
- (2) 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。
- (3) 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。
- (4) 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。

- (5) 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーや等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

- (1) 強風による畜舎や堆肥舎等の損壊、及び畜舎等への風雨の吹き込みを防止するため、施設の補強を行いましょう。
- (2) 飼料用トウモロコシは早生種等で収穫期を迎えつつあります。排水の悪いほ場には明きょを掘削し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

2 事後対策

- (1) 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- (2) 滞水しているほ場は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。
- (3) 豪雨によりほ場で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- (4) 飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。調製にあたっては、必ず水分調整を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めてください。